

リハビリテーション部の卒後教育システム

2010年～2015年のマスタープランである「卒後教育プログラム企画・運用」に準じて、マスタープラン最終年度である2015年には、予定通り全プログラムが施行されています。3年間の準備期間を経て、2013年4月から3ヶ月間の集中講義が中心である「新人教育プログラム」をスタートさせ、2014年4月には3年目のPT・OT、4年目のST向け臨床指導資格取得前プレゼンファイル全8ファイル（PT3ファイル・OT3ファイル・ST3ファイル、1ファイルのみPT・OT共通）をスタート、最終年度である2015年には、新人教育プログラム以外の全講義ファイル計14ファイルを完成・運用するに至っています。

新人教育プログラムを含むリハビリテーション卒後教育プログラムはSPOT教育システムと称され、レベル1～レベル5にランク付けされています。レベル1～レベル2だけはエスカレーター方式で自動的にレベル2へ移行し（PT・OTは3年目、STは4年目）臨床指導者向けの講義や試験（プレゼンファイルを用いた）を受けなければなりません。レベル3・レベル4・レベル5に移行するためには、予め決められた講義や勉強会への参加、症例レポートの提出、学会発表スキルの獲得、投稿スキルの獲得などをクリアしなければなりません。

レベル1・2は「ジェネラリスト養成期間」として概ね10年、レベル3は「レベル1・2向けの技術指導者、自立した学会発表者」「管理指導者見習い」として概ね主任レベルを指し、レベル4は「レベル3向け技術指導者、学会発表指導者、専門誌投稿者、自立した管理者」として概ね副部長レベル、レベル5は「学会発表指導者、専門誌投稿指導者、リハ部マスタープラン立案者、管理運営責任者」として部長レベルという位置づけで、SPOT教育システムのラダーに記されています。役職に就ける基準と連動させている点も本システムの特徴であり、主任となるためにはレベル3を、副部長となるためにはレベル4を、部長候補になるためにはレベル5をクリアしていなければなりません。

本システムで特記すべきことは、『10年掛けてジェネラリストを養成した後に、スペシャリスト或いはプロフェッショナルといったステージを用意していること』に他なりません。今後、高齢者が30～40%を占める人口構造へのシフトを考えれば、整形分野・脳外分野・呼吸器分野・循環器分野・がん分野などのあらゆる分野をローテーションさせた後に、訪問リハを経験させてジェネラリストを養成することは必須と考えます。

今後は、レベル3以上に到達したスタッフに対して手稲溪仁会病院独自で「ジェネラリストPT・OT・ST」の修了書を発行し、その資格について周知するよう働きかけようと計画しています。